



令和3年度(補正予算)独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
(コロナ禍における生活困窮者及びひきこもり支援に係る民間団体活動助成事業)

ひとり親・生活困窮家庭のための「いのちまるごとプロジェクト」 事業報告書

2022年4月～2023年3月



認定 NPO 法人
ハーモニーネット未来

◆ 私たちがめざすもの

ふれあい・たすけ愛社会(地域共生社会)の創出 ～子どもから高齢者まで安心して自分らしく～

1987年、子どもたちの心豊かな成長・発達を目的に設立。活動を積み重ねるうちに子どもにとってのより良い環境は、子どもから高齢者、障がい者、若者、今を生きるすべての人が安心して自分らしく生活できる地域共生社会だと気づき、活動が大きく広がってきた。安心して自分らしくいることのできる多くの居場所と「困った時はお互いさま」を合言葉に、助け合い社会をめざしている。

貧困等、個人の課題を社会全体の問題ととらえ、行政、企業、団体等、多様な主体による支援体制の仕組みの構築が、他者の「困りごと」を「我がこと」ととらえ、「まるごと」引き受けていく「支えあい文化」が、我々のめざす、『安心して自分らしく生きていくことのできる、ふれあい・たすけ愛社会』につながると思っている。

◆ これまでの取り組み ～その中から見えてきた課題やニーズ～

2016年、子どもの7人に1人が相対的貧困状態にあると報道があった時から「いのちまるごとプロジェクト」事業を実施。「食べる」「学ぶ」「暮らす」という生きる上で大切なことを柱に事業を組み立てている。

また、貧困に追い打ちをかけているのが長期化するコロナ禍であり、特に影響を受けているのはひとり親家庭といわれている。仕事が減る、収入がなくなることで起こる『金銭』や『食』の不安、先の見えない精神的な不安に寄り添うことにより生まれる「安心感」を提供する必要性を強く実感している。

貧困の連鎖は「教育の格差」といわれるように、連鎖を断ち切るためにも学習支援も重要な支援である。自粛生活が続くことでDV被害、虐待等家庭内トラブルも増加しており、自立をめざした安全で安心できる住居を提供することも必要な支援であると考えている。

解決策としてフードバンク活動を活用した食品・日用品の配布及び宅配を、毎月1回実施しているが、行政、母子・父子支援員、SSWから、またつながっている人からの紹介など、多くの問い合わせがあるが、この情報が本当に必要な人に周知できていないのではと思い、周知すること、また拡大していくことの必要性を実感している。

食料支援等で貧困が解決することはないが、これが入口となり信頼できる関係性を結ぶことにより、真の課題解決をめざしていきたいと願っている。

貧困という個人の課題を、社会全体の問題としてとらえ、社会で解決していくために行政・企業・各種団体等と連携し、支援体制の仕組みを構築していきたいと考えている。

◆ 本助成事業の目的

長期化するコロナ禍において、仕事が減る、収入がなくなるという『金銭』や『食』に対する不安、また先の見えない精神的な不安に寄り添うことで生まれる『安心感』を提供することを目的に、「食べる」「学ぶ」「暮らす」という、人が生きるうえで大切なことを柱に組み立て、多様でかつ複雑な家庭の課題に寄り添い、自らエンパワメントしていけるよう伴走する。

貧困という個人の課題を、社会全体の問題としてとらえ、社会で解決していくために行政・企業・各種団体等と連携し、早急の支援体制の仕組みを構築することにより、安心して自分らしく生活できる社会をめざす。

ひとり親・生活困窮家庭のための「いのちまるごとプロジェクト」事業

主な事業実施地域：岡山県内・井笠地域（笠岡市・井原市・浅口市・里庄町・矢掛町）

食べる

おなかいっぱい食べる幸せ、食べ物がある「安心感」の提供

対象：ひとり親・生活困窮家庭

- フードバンクを活用した食品・日用品配布及び宅配

フード&ライフドライブ「てとて」：毎月第4日曜日開催

- ・ 企業や地域のみなさまから寄付いただいた食品を配布。
- ・ 遠方、車がない、また外出できない人には宅配。
- ・ 行政、母子父子支援員、SSW等からの紹介が多い。

- 安心して自分らしくいることのできるこども食堂等「居場所」の提供

※共生型こども食堂「日ようびの昼ごはん」・しんぐるまざあーずカフェは、現在、新型コロナウイルス感染拡大のためにやむなく閉所。代わりに手作り弁当の配布を行う。

- ・ 2022年10月～2023年3月まで手作り弁当配布 毎回180～200食用意。
- ・ メニュー：五目おこわ・ちらし寿司・チキンライス・赤飯・黒豆寿司・とりごぼう飯
- ・ 協力：井笠の味づくり研究会



《フードドライブ配布&宅配実績》 2022年4月～2023年3月

定期配布(a)								臨時配布(b)				配布合計			
定期配布	手渡し(来所)			配送①			配送②		合計		臨時配布	手渡し(来所)		a+b	
	世帯数	人数		世帯数	人数		世帯数	人数	世帯数	人数		世帯数	回数		世帯数
		子ども	大人		子ども	大人									
2022.4	121	246	179	16	38	23	37	146	174	632	2022.4	8	14	2022.4	182
5	122	233	142	16	36	22	94	315	232	748	5	9	13	5	241
6	0	0	0	19	43	26			19	69	6	12	21	6	31
7	197	380	236	17	28	23			214	667	7	8	10	7	222
8	183	349	211	29	64	31			212	655	8	90	2	8	302
9	10	16	11	20	45	21			30	93	9	187	4	9	217
10	290	560	338	29	63	30			319	991	10	167	3	10	486
11	150	285	174	26	57	27			176	543	11	159	3	11	335
12	159	313	188	25	56	26	108	320	292	903	12	159	3	12	451
2023.1	158	310	181	27	56	27	36	131	221	705	2023.1	164	3	2023.1	385
2	161	314	186	27	60	30			188	590	2	180	3	2	368
3	167	324	193	31	73	36			198	626	3	138	2	3	336
計	1,718	3,330	2,039	282	619	322	275	912	2,275	7,222	計	1,281	81	計	3,556

※9月から週一回牛乳配布

※6月・9月は実施せず、7月・10月に2回実施

《フードバンク寄付総合計》 2022年4月～2023年3月

個人：279名

企業：283件

総重量：57,308.8719kg

《フードドライブ配布&宅配 市町別実績》 2022年4月~2023年3月

(家庭)

年月	笠岡市	浅口市	井原市	里庄町	高梁市	津山市	赤磐市	矢掛町	吉備中央町	岡山市	総社市	倉敷市	新見市	瀬戸内市	真庭市	玉野市	福山市	尾道市	合計
2022.4	100	10	6	3				37		4	1	6	1	2			3	1	174
5	94	32	63	21				1		4	1	8	1	2			4	1	232
6		1	2					2		4	1	5	1	2			1		19
7	146	31	7	9				5		4	1	5		2			3	1	214
8	152	23	7	10	2			3		4	2	6					2	1	212
9	6	4	2		2			1		4	1	5	1	2			2		30
10	214	38	15	11	1	3	2	7	2	6	1	9	1	2			5	2	319
11	108	23	8	6	2	1	1	4	2	4	2	8	1	2			3	1	176
12	110	32	52	19	20	1	1	32	2	4	2	8	1	2			5	1	292
2023.1	112	30	17	8	8	1	1	10	2	4	2	9	7	2		1	6	1	221
2	113	24	8	6	2	1	1	5	2	5	2	8	1	2		1	6	1	188
3	119	25	8	6	2	1	1	5	2	5	3	9	1	3		1	6	1	198
計	1,274	273	195	99	39	8	7	112	12	52	19	86	16	23	0	3	46	11	2,275



利用者の声

- 収入は変わりませんが、物価高騰で出費はかさむばかり。その上、子どもの受験や入学などでお金がかかり大変です。毎月送っていただいているお米や日用品はすごく助かっています。
- 子どもは食べ盛りなのに、両親とも求職中で、収入がありません。子どもたちに食べさせるお米は助かります。その他もフードバンクの食料や日用品は本当に助かります。ありがとうございます。
- コロナ禍で収入が年々落ち込み、支出が収入を上回っており日々の生活に支障があります。食料支援は本当に助かっています。その分、子どもの部活の用品などを購入しています。お菓子は子どもたちがみんなで分けて食べています。子どもの笑顔が私の心の支えとなっております。



- ①成果 ■フードドライブを毎月行い、挨拶や会話をすることで笑顔が生まれ、少しずつなじみの関係が生まれてきた。今まで語らなかった日常的な悩みや想いを話してくれる家庭が増えた。つながるツールとしてLINEも選択肢の一つに加えたことで、より気軽に身近に家庭内の問題や悩みが話しやすくなった。

②課題と展望

- 行政からの食品提供の相談も相次いでおり、希望者も増加しているにもかかわらず、公費がないのも現状である。より良い活動にしていくにも財源は必要であり、必要な人に必要な支援が届く仕組みづくりが急務である。
- 「貧困」という大きな課題を、子ども食堂などの居場所だけで扱うのは、ハードルが高い。各支援団体、行政、専門機関等とのつながりの中で解決に向けた動きが重要である。

学ぶ

経済的理由で塾等に通えない家庭の子どもが、やりたい勉強ができる機会の提供

対象：小学1年生から高校3年生の子ども

●「てとて」登録の子どもを対象とした**オンライン学習「みらい」**

- ・無料貸与されたタブレットを使って、自宅で勉強できる。
- ・学習動画配信サービスを利用し、いつでも自分の学びたい学習ができる。
- ・タブレットやインターネット環境がない場合、ポケットwifiを無料貸与
- ・一人ひとりに合わせた内容でその子専用のオリジナル動画を作成、配信
- ・不登校等で学ばなかった教科の学びなおしがじっくりできる。
- ・子どもたちの学習の悩みや生活不安などは、スタッフや担当塾講師とLINEでつながり、いつでも相談できる。



- ①**成果** ■経済的理由により勉強したくても塾に通えない子どもに、苦手な教科や大好きな教科をオンライン動画で学習してもらうことができた。他人とのコミュニケーションが苦手な不登校児には、直接対面しないタブレットによるオンライン学習は「緊張せず学習ができる」「授業を受けていない学年の学びなおしができる」と好評であった。

②課題と展望

- 子どもが自分の置かれた環境により、未来への夢や希望を捨てることのないよう、学びにおける心配事や困りごと、身近な存在としていつでも相談に乗れる体制を整え、解決に向けた柔軟な支援体制の構築が急務である。

暮らす

母子・女性の自立をめざした安心安全の居住空間の提供

対象：母子家庭・シングル女性・DV被害者女性・高齢者女性など

- 寄り添い、伴走的支援をすることにより生きる力を高め(エンパワメント)、経済的・精神的な自立をめざす**共同住宅「ハーモニーはうす(ステップハウス)」**
 - ・女性の「自立」という方向性をもち、短期～中期と利用できる共同住宅
 - ・利用家族とともに今後を考え、必要であれば同行し、法的な手続きなども一緒に行う
 - ・灯油給湯機を設置し、複数家族が居住しても大丈夫なように設備の充実を図った。
 - ・悩みや不安を感じている親や若者の相談窓口設置：365日24h対応
 - ・質の高い支援を行うためのスタッフ研修の充実

- ①**成果** ■当法人の運営するステップハウス「ハーモニーはうす」の給湯器設置を行い、安心安全な居住空間を提供することができた。生活困窮家庭が心と身体を休めつつ人生の次のステップに移るサポート並びに退去後も行政や関係支援機関と継続したサポートを行うことができた。

②課題と展望

ひとり親世帯(母子)等、住宅確保要配慮者の課題解決、生活支援、金銭管理、精神的に自立して生活ができるように寄りそうには長い時間がかかる。学校、行政等、関係機関とケース会議等を行い、連携して寄りそうことにより、子どもへの連鎖を食い止め、自立した生活につなげていきたい。



多様な主体による支援体制の仕組み構築について

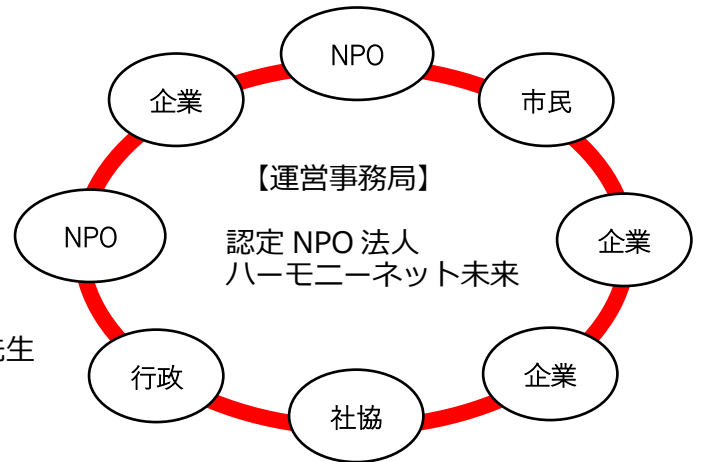
【目的】 貧困という個人の課題を社会全体の問題としてとらえ、行政、企業、各種団体、市民等多様な主体による支援体制の仕組みを構築することにより、課題解決をめざす。

「てとて」ネットワーク 設立

【ネットワーク団体構成】

13 団体 **25** 名 (2023年2月時点)

- ・ 笠岡市子育て支援課・地域福祉課・生活福祉課・人権推進課・教育委員会・笠岡市社会福祉協議会
- ・ 企業・法人 (4団体)
- ・ スーパーバイザー：川崎医療福祉大学 直島克樹先生
- ・ アドバイザー兼事務局：
公益財団法人みんなでつくる財団おかやま



- ⇒ 連携強化 (近況報告、相談、協働)
- ⇒ 予算化・仕組み化・協定の提言 等

【内容】

2022年度の取り組み

	日時	場所	参加者	内容
第1回	7/8(金) 14~16時	ハーモニーネット未来 未来事務所	8団体 12名	・ 講演「子どもを取り巻く環境と、課題解決における支援者ネットワークの効果」 講師：直島克樹先生 (川崎医療福祉大学) ・ 参加者活動紹介、意見交換
第2回	10/5(金) 13~15時	ハーモニーネット未来 未来事務所 + オンライン	10団体 19名	・ 行政、社協の取り組み紹介 ・ 意見交換
第3回	12/20(金) 16~18時	オンライン (Zoom)	7団体 10名	・ 連携事例紹介 ・ ケース検討 ・ 協働に関する意見交換、取り組み検討
第4回	2/20(月) 10時半 ~12時	オンライン (Zoom)	11団体 18名	・ 講演「貧困問題の現状と今後について」 ・ 笠岡市の「貧困」現状 (行政・社協担当課) ・ 連携事例紹介、今後の取り組み等について

①成果

- 主にひとり親家庭・生活困窮者を対象とした取り組みを行っている行政・社協の担当職員や、地元の企業等が定期的に集まる場を設け、課題認識のすり合わせや解決方法の検討、情報共有等を行うことができたことは、今後も連携して実施する支援活動にもつながる機会であった。会を重ねるごとに新規参加団体もあり、地域の支援体制の基盤が構築できた。
- それぞれの立場で、現時点で行っている取り組みややりたいこと、できていないことなどを共有することで、支援のはざまや役割分担の確認、また今後のなすべきことを考える契機となった。

②課題と展望

子どもの相対的貧困率が先進主要国の中でも高い数字となっているにもかかわらず、この豊かな日本にそんな貧困者がいるのか、と理解が低いのもまた現実である。貧困の連鎖が日本社会に与えている損失も大きいものであろう。貧困の実態を広く周知することで応援者を増やし、今後、本ネットワークを拡充・継続し、多様な主体の協働による支援体制の仕組み構築につなげ、貧困という社会課題の解決をめざしていきたい。

【 全体のまとめ 】

見えてきたもの

- コロナ禍において、本活動を通じて見えてきたことは、支援を必要としている人の急激な増加と、困りごと、貧困の背景にある実態の複雑さである。
- 収入が少ないということだけでなく、金銭管理ができない、借金、多重債務、ゴミ屋敷、離婚、血縁関係、虐待、DV被害精神疾患、発達障がい、知的障害、愛着障がい等、困難が複雑に絡み合い、解決の糸口が見えないのが現状である。
- 性差別、医療格差、教育格差に加えて、体験の格差による影響。「家族旅行」や誕生日のお祝いをしてもらったことがない、部活動に参加できない、就学旅行に行けない、家に本もなく、文化芸術にふれる機会もない。こうした体験の欠如はわかりづらいが、その積み重ねは「コミュニケーション力」「自己肯定感」などの「社会を生き抜く資質・能力」等、その後の人生に重大な影響を及ぼしかねないのではないかと懸念される。
- 日本の子どもの貧困の現実、相対的貧困率 13.9%、ひとり親家庭においては 50.8%、先進主要国の中でも高い数字となっているにもかかわらず、この豊かな日本にそんな貧困者がいるのか、と地域住民の理解が低いのも、また現実であった。

成 果



①セーフティーネットとしての成果

「食べる・学ぶ・暮らす」という活動を充実・拡大するとともに、登録者に寄り添い、その背後にある本質的な課題を検討し、関係機関と連携し、解決に向けていくことができた。

②多様な主体による支援体制の仕組み構築

多様な主体で連携した真の課題解決が必要であることを共通認識として『てとて』ネットワークを構築し、現状や困りごとの共有、具体的な支援検討等を行い、安心して自分らしく生活できる地域を広げていけるよう連携体制の強化を図ることができたことは、最大の成果である。

③モデル事業の構築

・「食べる」「学ぶ」「暮らす」という、人が生きるうえで大切なことを総合的に組み合わせて実施している「いのちまるごとプロジェクト事業」を拡充し、継続モデル事業として構築することができた。他市町村で活動立ち上げ予定者からの相談や、支援者同士の情報交換会等を通して、本事業のモデルやノウハウを発信することができた。

今後に向けて



- 貧困の連鎖が日本社会に与えている損失も大きいであろう。未来を創る子どもたちの心豊かな成長・発達が重要であり、生まれ育った環境によって子どもの未来が閉ざされることがあってはならないと強く願っている。引き続き、「食べる」「学ぶ」「暮らす」という人が生きていくことに大切な柱で組み立て、充実・拡大することにより、「自分らしく、安心して生活できる地域の創出」をめざす。
- 当事者、行政、企業、各種団体、多くの市民等が、『貧困の解決』という大きな目標を共有し、目標に向かって進むことで、当事者の利益だけでなく、社会の利益につなげていくことができたらと心より願っている。
- 他者の「困りごと」を「我がこと」ととらえ、「まるごと」引き受けていく『支えあい文化』が我々のめざす『安心して自分らしく生きていくことのできる、ふれあい、たすけ愛(地域共生)社会』につながると考えている。

みなさまにお願いしたいこと

フードバンク活動に参加しませんか

食品を提供したい人へ

ご家庭で余っている未利用食品や日用品をご寄付いただき、必要としている子育て家庭にお渡しします。

- 認定NPO法人ハーモニーネット未来
- 大井児童館(笠岡市大井南 52)
- TEL 0865-63-0443

食品を受け取りたい人へ

企業や地域の人から集まった食べ物や日用品を必要な人へお渡ししています。手から手へまごころをこめて。



ボランティアをして下さる人へ

食品の運搬・仕分け・記録等をお手伝いしてくれる人を募集しています。まずは下記までお電話ください。

活動資金をご協力下さい

ご寄付を受け付けております。

郵便振替口座 01340-0-105365

口座名義 認定NPO法人 ハーモニーネット未来

※備考欄に「フードバンク」とご記入下さい。



継続した支援が、大きな支えとなります。

こちらのQRコードから
マンスリー寄付ページに
移行できます。

毎月クレジットカードで寄付をする マンスリーサポーター募集中!!

1ヶ月1,000円(1日あたり約33円)~30,000円(1日あたり約1,000円)をクレジットカードにて寄付していただけます。

- ※クレジットカードご利用の場合、「クレジットカード寄付ご利用案内」を必ずお読みください。
- ※ご登録いただいた住所・メールアドレス宛に、活動報告や領収書をお送りします。不要な場合にはご連絡ください。
- ※毎月の自動引き落としとなります。
- ※複数口のお申し込みをご希望の場合は、お手数ですが1つの決済を終了してから、2つ目の決済手続きを改めて最初から行ってください。
- ※認定NPO法人ハーモニーネットへの寄付は**寄付金控除の対象**となります。



マンスリー寄付をいただいた皆様には、年4回発行されるハーモニー新聞、年次報告書(年1回)をお送りします。

1日約 **33円**~の寄付が
子育て家庭の支えとなります。
親子の「食べる」「学ぶ」「暮らす」
を応援しよう!

環境教育・子ども・障がい児・
女性・ひとり親家庭等の支援
のための基金です!
みなさまからのご寄付をお待ち
しております。

↓詳しくは、下記まで
お問い合わせください。

おひさまプロジェクト IN KASAOKA

改訂版



環境教育・子ども・障がい児・女性・ひとり親家庭等支援のための

おひさま基金に

ご参加ください。

2016年3月~、笠岡市と協働して太陽光発電所を大井児童館の
屋根に設置し、おひさまプロジェクトをスタート。

発電した電気を売電することで得た売電収入から諸経費を引いた
余剰金と、みなさまからの寄付金で「おひさま基金」を設立・運営し、
環境教育や子ども・障がい児(者)・女性・ひとり親家庭をはじめ、
さまざまな支援を行います。

寄付金額 1口 3,000円から

※なお、お1人3口(9,000円)以上のご寄付を頂いた方には、
当法人より記念品を差し上げます。
※法人への寄付は、税法上の特別控除の対象となります。
詳しくは下記までお問い合わせください。

認定NPO法人
ハーモニーネット未来

〒714-0081 岡山県笠岡市笠岡 5909

E-mail: kodomo1@kcv.ne.jp

TEL:0865-63-4955

代表携帯: 080-2900-6078

